

佐賀新聞大正期炭坑記事（三）

町田，保次
熊本行政監察局

<https://doi.org/10.15017/13658>

出版情報：エネルギー史研究：石炭を中心として. 9, pp.60-102, 1977-12-04. エネルギー史研究会
バージョン：
権利関係：

最早瓦斯局の殖益も相当の域に進み此上は早く民業に移して法制の束縛を脱し益々業務の拡張を謀らしむべしと陳情したり。其結果同年十月遂に瓦斯局は払受人総代沢沢栄一・藤本精一両氏の手に売却せられ、払受人は二十七万円の資本を以て一会社を起しここに事業を承継したり。今日の東京瓦斯会社即ち是なり。

当時本社を芝浜崎町に置き、沢沢氏委員長たり。藤本氏検査掛となり、笹瀬元明氏支配人の事を行へり。而して、成立の初に於ける需要者の数は三百四十三戸、灯数六千六百七十八、街灯四百基、瓦斯管延長十一哩六十二鎖、一日の瓦斯需要高平均七万五千五百立方呎にして、今日より之を觀れば、舊に雲泥の差のみにあらずと雖も、其當時に在ては実に機関の全力を尽せしに相違なし。

以上述べたように、明治の初めに、横浜・神戸・東京と相繼いで開始されたガス事業も、明治二十六年（一八九三）長崎でガス供給事業が始められるまで、日本に新しいガス事業は現れなかつた。

佐賀新聞大正期炭坑記事 (IV)

町田保次

大正三年七月二十二日 九管主要駅収入

九州鉄道管理局における大正二年度（本年三月迄）の運輸収入は合計一七、七五七、〇四二円五七銭にして、前年度に比し二、〇六三、九三三円を増加せり。内旅客収入六、六二九、三一〇円六九銭、石炭収入六、七七二、一九一円二二銭、普通貨物収入四、三三五、五四〇円六六銭なるが、今一〇万円以上の収入を受けたる各駅中本県内の分を示せば左の如し。△印は収入減を示せるものなり。

駅名	収入高	乗車人員
佐賀	二七二、四八八円	四六四、三一七人
相知	△一九五、八〇七	一〇四、二八七
山本	△一八〇、六七一	九五、六八八
武雄	一一二、八一二	一九三、四二九
北方	一〇四、六五四	八五、二〇二

大正三年七月二十二日 老婆の縊死

東松浦郡厳木村本山貝島炭坑内居住崎ギン（七〇）は夫伊八死亡後杖とも柱とも思える実子敬吉が近来両足共歩行できず、且つ身体衰弱し起居不自由なるを痛く心配し、去る十八日午後七時半頃自宅に於て遂に縊死をとげたりと。

大正三年七月二十四日 補充兵の告発

杵島郡北方村志久杵島炭坑在住の福岡県八女郡北川内村久原大

(七三頁へつづく)

この資料⁽¹³⁾は寛政二年の「役所日記」の中のものである。実は、天和二年から明治元年までを年代順に並べてある「御屋形日記」には、いくらか欠けた年代がある。その不足個所をこの「役所日記」で補つてみたら、重複することなしに、或程度補充することが出来たので、一応「役所日記」も「御屋形日記」と同様のものと見て行きたいと思ひ取上げてみた。表記の違ひは、多分、何かの都合で記載の場所が御館（おやかた）か役所かであったことによるものではなからうか。寛政二年九月より同三年八月までの、この「役所日記」の扉には「新役所日記」と大きく記して、その見返しに「年寄役梶原喜兵衛中西源平衛兩人、御屋敷交代勤福地新左エ門定詰、尤喜兵衛源兵衛儀在多久之間は新役所日勤被仰付候事」とあり、「御屋敷」と「新役所」が区別されている。

(13)は請役所から出されたものの写しである。商品の値段に関する記事であるが、此処に書並べてある商売物の中に「石炭」が見える。並記されている一つの品物にすぎないが、これまで薪の代用燃料として、自家消費の為の掘さく願ひが出されていた石炭が、初めて販売されている商品としてその名を見せたのである。これによって、寛政二年（一七九〇）肥前多久で掘られた石炭が、市場性のある商品として流通していたことが分る。

※当時の肥前の石炭採掘用具について推量出来る資料としては、天明四年（一七八五）肥前唐津藩士、木崎悠々軒盛標が描いた絵巻物「肥前国産物図考」（佐賀県立博物館所蔵）の中の石炭採掘の図がある。

（六〇頁より）

町松太郎（三一）全県三池郡大牟田町稻荷塚本時次郎（二八）は何れも補充兵でありながら、無断に本籍地を離れ其筋に届出ざりしより昨日告発さる。

大正三年七月二十六日 採炭中惨死

西松浦郡西山代村大字西分白山炭坑塩田マス（三四）は再昨二十三日午前六時頃夫幸太郎と共に同坑口より坑内百五十間位の左二片切刃と称する処に採炭中、盤石俄然墜落して圧迫され惨死せり。

大正三年七月二十八日 脳しんとうにて死亡

杵島郡北方村杵島炭坑々夫森沢又造（一七）は去る二十六日午前九時頃坑内において採炭中俄に気分悪しくなり、炭車に乗り出坑の際坑道の天井に坑木突出せしものに突き当り、炭車より墜落し頭部を強打し脳しんとうを起し死亡せり。

大正三年七月二十九日 唐津積出炭盛況 西港に積取船輻輳す
西唐津港にては過般來積取船輻輳して積出非常の盛況を極め居れり。今本月十五日より二十四日に至る十日間に於ける積出高、及び目下積込中のものを掲ぐれば左の如し。此内室蘭行一、二〇〇トンとは三井物産の取扱にして、他は悉く三菱会社支店より積載せしものなり。

抗州丸横濱行二、七〇〇トン △アリヨル号浦汐行三五〇
△江浦丸長崎行七〇〇 △太田丸香港行五、四〇〇 △ニジニノ
ブコト号浦汐行一、二〇〇 △鳥羽丸上海行一六〇 △第二小
樽丸横濱行三、六〇〇 △竹島丸上海行九〇〇 △ヤロスラブル

（八一頁へつづく）

八拾八号

残高五拾目 持帰

寅三月廿三日江相渡ス

十六日

一 百十式文

出駕籠一挺

廿一日

一 三百廿八文

出駕籠并分持老荷分

一 三百六十五文

肴代

郡中年番 平山小十郎

郡奉行 吉村土肥之助

(七三頁より)

号浦汐行五、〇〇〇 △シチー、ヤフコリス号室蘭行一、二〇〇

△神国丸馬尼刺行六、〇〇〇 △マランナ号全上六、〇〇〇

△リオパシク号全上四、七〇〇 △タンポフ号浦汐行五、二〇〇

△日洋丸馬尼刺行四、二〇〇 △第二千代田丸名古屋行一、七〇〇

即ち合計十六隻にして、積出総数四九、三一〇トンの多額に達

せり。尚ほ本月迄には内外大型船舶七、八隻入港の予定なりと云

へば、本月中の積出港は稀有の盛況を呈すべしと。

大正三年七月三十日 補充兵告発さる

杵島郡北方村杵島炭坑佐藤伴一(二八)は陸軍補充兵であり乍

ら、明治四十五年一月本籍地島根県八東郡宍道村佐々市を出発し

て現住所に來り、今に至るも届け出をなさざるより昨日告発さる。

大正三年八月二日 試掘許可

福岡県門司市浜町三丁目古川又四郎氏の出願に係る西松浦郡西山

代村地内石炭鉱区一三六、〇〇〇坪の試掘願いは今回許可された

り。

大正三年八月三日 重要炭山産額

佐賀県は一九二、五九九、六九七斤

福岡鉱務所管内九州山口各県下に於ける六月中の重要炭山産額

は二、〇七七、四四五、四四〇斤にして、前月に比し二二六、一

三九、九〇九斤の激減を示せり。減少の原因は一般需要減少に依

るといへども、斯く著しき数字を示したるは筑豊鉱業組合が六月

来採炭の制限をなせし事其の主因なり。即ち筑豊組合のみの五月

(二〇二頁へつづく)

炭坑名	坑夫数	石炭券(切符)発行の種類	現金交換日	所在地	備考主
金谷炭坑	600人 (7:3)	切符発行他坑に同じ	毎月二回	神田村 金田	谷茂平
金田炭坑	530人 (8:2)	五百斤、百斤、五十斤、十斤、五斤、一斤の6種	月3回 6の日	金田	毛利元照
赤池炭坑	1148人 (7:3)	千斤、五百斤、二百斤、百斤、五十斤、十斤の6種	月3回 1の日	上野村 赤池	安川敬一郎
豊国炭坑	822人 (467:355)	千斤、五百斤、二百斤、百斤、五十斤、十斤の5種	月3回 1の日	糸田村	平岡浩太郎
峯地炭坑	480人	五千斤、千斤、五百斤、二百斤、百斤、五十斤、十斤の7種	1日、16日	弓削田村 川宮	藏内次郎作
位登炭坑	30人	二千斤、百斤、五十斤、十斤、五斤の5種	1日 16日	猪位金村 位登	長谷川敬治
豊州炭坑	150人 (6:3)	千斤、五百斤、百五十斤、百斤、五十斤、二十斤、十斤の7種	1日 16日	川崎村 池尻	豊州炭坑(株)
牛の浦炭坑	200人 (8:2)	切符発行せず、証明書で購買可能		池尻	" "
鮎池炭坑	110人 (80:30)	千円、五百斤、三百斤、二百斤、百斤、五十斤、二十斤、十斤、五斤の9種	1日 16日	池尻	" "
糸飛炭坑	250 (7:3)	千斤、五百斤、百斤、五十斤、十斤、五斤の6種	月3回 1の日	金川村 夏吉	松尾敏幸
扶桑炭坑		三十斤、十斤、五斤、一斤を補助貨幣の代用とした。		勾金村 中津原	大島兵吉
上位登炭坑		位登炭坑と同じ発行	月2回	猪位金村 上位登	村田為吉
小倉炭坑	400人 (7:3)	千斤、五百斤、百斤、五十斤、十斤、五斤の6種	1日、16日	企救郡 足立村	筑豊炭坑 株式会社
足立炭坑	250人	三千斤、二千斤、千斤、五百斤、三百斤、二百斤、百斤、五十斤、三十斤、二十斤、十斤、五斤の12種	10日、25日	足立村	藏内次郎作

(八一頁より)

中の産額は一、八三五、四三六、七〇一斤なりしに、六月は一、三四二、五三七、四七三斤となり、実に四九二、八九九、二二八斤の激減にして、其減少率実に三割六分となる。尤も風水害等に依り止むを得ざる原因をなせるは勿論なりとす。今本県の産額を示せば左の如し。

芳谷 七四、二六三、九六三
 杵島 六、九〇四、五八〇
 久原 四、九七六、五二二
 相知 四八、一七六、四〇二
 杵島第二坑 三九、八四三、八六〇
 岩屋 一八、四三四、三八〇

大正三年八月五日 唐津港の特別輸出

東松浦郡唐津港における七月中の特別輸出は艦船売込額は外国七六、六五九円内地三二、二二一円計一〇八、八七九円にして、これを前月に比すれば外国船に於て七、一三一円、内地船において一七、一九三円、計二四、三二四円の増加を示せり。今之を品別に示せば左の如し。

品名 外国船売込 内地船売込
 石炭 七五、六七〇 二九、〇一七
 (略)

因みに同月中外国船に売込たる数量は飲料水四〇〇トン、石炭一〇、八〇〇トンにして、内地船は飲料水三三〇トン、石炭四、六一〇トンなりと。

(次号へつづく)